

ウォールマウント/チューブタイプ赤外線リピーター マニュアル

赤外線（IR）リピーターはAV機器等で使われる赤外線リモコンからの信号を受信して、赤外線リモコンからの信号が直接届かない場所—キャビネット内や別の部屋に設置されているAV機器まで有線で赤外線信号を伝え、操作するための装置です。

CFLウォールマウント（F8121）/チューブタイプ（F8130）赤外線リピーターには、“接続ブロック”（2エミッタ出力：F8192）または（4エミッタ出力：F8134）、および12V DC電源（F8781）が必要です。別途お求めください。

設置配線

CFLウォールマウント（F8121）赤外線リピーターは、両面テープで壁面やTV表面等、リモコンを向け易い場所に貼り付けます。

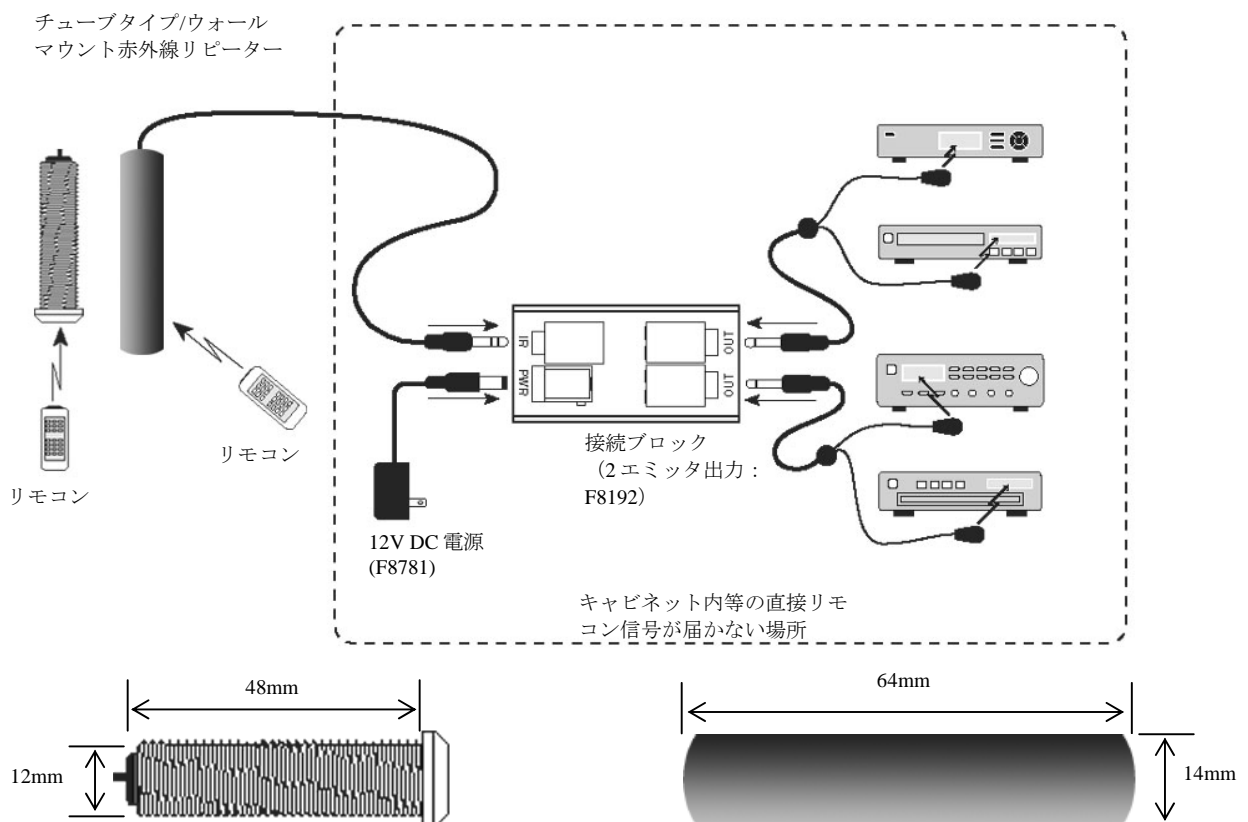
チューブタイプ（F8130）赤外線リピーターは、壁面やキャビネットに直径12mmの穴を空けて、前面のレンズ部と内側のナットで壁を締め付けて設置します。（前面のレンズ部は取り外すと出っ張りのない直径12mmの棒状になりますので、壁の外からでも内からでも穴に挿入することができます。）

接続ブロックに赤外線リピーター、赤外線エミッタ、電源を接続します。

赤外線エミッタにはシングルタイプ（F8282）、デュアルタイプ（F8284）があります。どちらを使用してもかまいません。

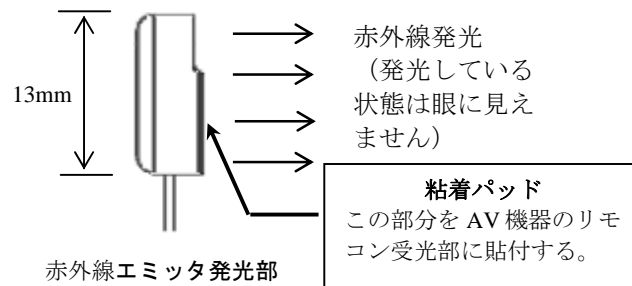
注：配線中は電源を入れないで下さい。電源を入れたまま赤外線エミッタを接続すると故障の原因となります。

注：赤外線リピーターの確認LEDが常に点灯し続ける場合は、“トラブルシューティング”を参照してください。



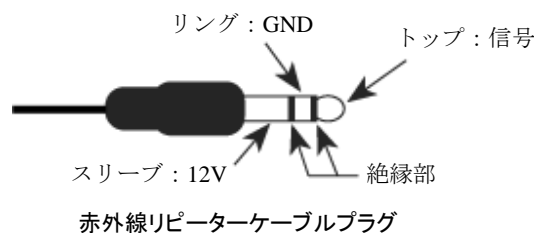
上図はデュアルタイプの赤外線エミッタを接続した場合です。シングルタイプだけ使用してもかまいません。

もし2本以上のエミッタを取り付けたい場合は、接続ブロック (F8134) を使って、4本のエミッタケーブルに分岐することができます。デュアルタイプを接続すると最大8機器まで操作することができます。



ケーブルの延長

赤外線リピーターのケーブル (約2メートル) では足りない場合は、15m 延長ケーブル (F8784) を利用して、リピーターケーブルまたはエミッタケーブルを延長してください。



トラブルシューティング

1. 赤外線リピーターを使用していて、正しく動作しない場合の原因として次のことが挙げられます：
 - 液晶 TV の蛍光管、プラズマディスプレイ、ハロゲン灯、ネオンアートや照明ダイマー、直接又は間接の太陽光線、アクティブ赤外線センサ、CRT モニター等の影響が及ぼさず、赤外線リピーターの確認 LED がリモコン信号受信時以外のときに点灯しなくなるようにリピーターの位置を変更してください。
 - 赤外線ノイズは明るい色の周囲の壁や家具等に反射して赤外線レーザーに入光しますので、周囲に黒い色の布や物を置いたり、赤外線レーザーに覆いをし、入光角度を制限することで改善することがあります。
 - 赤外線リピーターの確認 LED が常に点灯し続ける状態で、継続して使用すると故障につながる可能性があります。
2. 赤外線リピーターの確認 LED が赤外線受信時に点灯しない時は、次のような確認操作をお勧めします：
 - AC アダプタがコンセントに挿されていますか？
 - 赤外線リピーターのステレオミニプラグが接続ブロックの” IR RCVR” コネクタに接続されていますか？ (“OUT”コネクタに接続されていないことを確認して下さい。)

- 直接ケーブルで配線している場合、接続ブロックの3端子ターミナルに正確に配線されていますか？
3. もし赤外線リピーターのLEDが点灯して動作を確認しているのに、機器が正確に動作しない場合は、赤外線エミッタ発光部が正しい位置に付けられていない可能性があります。赤外線エミッタ発光部は必ず機器の赤外線受信窓の前に、貼り付けて下さい。

スペック

F8121

赤外線信号変調バンド幅：30-60 KHz

通常受信可能な受信器正面からの角度：55度

F8130

赤外線信号変調バンド幅：30-100 KHz

通常受信可能な受信器正面からの角度：55度

共通項目

最大電流：100mA

電源消費量：12V 20mA